

体裁	箱	番号	資料名	編著者名	年	月日	発行者	備考
ノ	F	59	ノート		欠	欠		立論備忘，電気関係文献
ノ	F	60	ノート		1956			1956年1月1日から1月10日までの日記，電流系設計図案，明治工業史鉄道年表コピー
ノ	F	61	ノート		欠	欠		立論備忘，トランジスタ小史コピー貼付
ノ	F	62	ノート		欠	欠		立論備忘，化学小史年表コピー
ノ	F	63	ノート		1954	欠		表紙に「11th.Oct.1954」とあり，電磁場に関する
ノ	F	64	ノート		欠	欠		表紙に「備忘録」とあり，振動学入門他のノート
ノ	F	65	ノート		欠	欠		ヒヤリングメモ，家計簿，平凡社世界大百科事典編集部からの「ボンベイ・ピクトリア・アルバート博物館」原稿受領はがき，小学館連載のメモ
ノ	F	66	ノート		欠	欠		科学史の新ヒューマニズム読書メモ，電気磁気学読書メモ，昭和26年年始状宛先，年不明日記など
ノ	F	67	ノート		1968・1969			昭和43・44年日記合冊，表紙に「35」とあり
ノ	F	68	ノート					読書メモ，表紙に「エネルギー（1999）・蘭学（長野）」「36」とあり
ノ	F	69	ノート		1959・1960			表紙に「小学館図鑑，NETテレビ」「8」とあり，
ノ	F	70	ノート					表紙に「科学童話（その他の出版社）」「9」とあり
ノ	F	71	ノート					表紙に「実験（実験装置の大型化）」「10」とあり
ノ	F	72	ノート					表紙に「講演関係 NSB，NET，都研」「11」とあり
ノ	F	73	ノート		1968～1972			日記，表紙に「主任者・部・研究室 会議記録」
ノ	F	74	ノート					「12」とあり
ノ	F	75	ノート					表紙に「NET（化学の世界）（萩原ディレクター）」
ノ	F	76	ノート					「13」とあり
ノ	F	77	ノート					表紙に「理科教育論（科学読売），構造出版（永久機関），欧文社（時）」「14」とあり
ノ	F	78	ノート					表紙に「T.V.（NHK）理科教室（中・高）」「15」とあり
ノ	F	79	ノート					表紙に「やさしい電気実験，ぼくらの実験文庫，磁石と電気，（誠文堂）子供の科学」
ノ	F	80	ノート					「16」とあり
ノ	F	81	ノート					表紙に「科学技術振興財団（科学技術館創設）」
ノ	F	82	ノート					「17」とあり
ノ	F	83	ノート					表紙に「講演RAD10，NSB，NET，小学館，東映，学研」
ノ	F	84	ノート					「18」とあり
ノ	F	85	ノート					表紙に「子供の科学を含む」
ノ	F	86	ノート					「19」とあり
ノ	F	87	ノート		1961・1962			表紙に「NHKTV36年度，中337年度テレビ実験室」
ノ	F	88	ノート					「20」とあり
ノ	F	89	ノート					表紙に「講演会・講習会，NET，都研」
ノ	F	90	ノート					「21」とあり
ノ	F	91	ノート					表紙に「雑件関係（永久機関），博物館関係（2）」
ノ	F	92	ノート					「22」とあり
ノ	F	93	ノート					表紙に「雑 時事通信，12channel，アンテナ（魔鏡），小学館」
ノ	F	94	ノート					「23」とあり
ノ	F	95	ノート					表紙に「日本魔鏡について」
ノ	F	96	ノート					「24」とあり
ノ	F	97	ノート					表紙に「理科教育（執筆関係），（学研）3，4年の科学」
ノ	F	98	ノート		1963			「25」とあり
ノ	F	99	ノート					表紙に「NHK・TV・38年度 理科教室，テレビ実験室」
ノ	F	100	ノート					「26」とあり
ノ	F	101	ノート					表紙に「エレキテル究理源 橋本宗吉」
ノ	F	102	ノート					「27」とあり
ノ	F	103	ノート					表紙に「研究ノート 鏡，雑誌会」
ノ	F	104	ノート					「28」とあり
ノ	F	105	ノート					表紙に「ニュートン伝」
ノ	F	106	ノート		1949～1954			「29」とあり
ノ	F	107	ノート		1954～1958			表紙に「文部省時代から科博へ（S29），昭和22・24年頃（博物館のはなし）」
ノ	F	108	ノート					「 」とあり
ノ	F	109	ノート					表紙に「博物館関係（1）（科博に移った頃）」
ノ	F	110	ノート					「 」とあり，頁間に昭和36年のNHK受信料の受領書と封筒が挟まる
ノ	F	111	ノート					表紙に「物理実験法の調査，科学読売の初期」
ノ	F	112	ノート					「 」とあり
ノ	F	113	ノート					表紙に「科学読売（コントの科学）実験データ」
ノ	F	114	ノート					「4」とあり
ノ	F	115	ノート					表紙に「理科実験（修理），文部省」
ノ	F	116	ノート					「5」とあり
ノ	F	117	ノート					表紙に「理科実験の取扱いについて（藤川），理科器具の使い方，実験法」
ノ	F	118	ノート					「6」とあり
ノ	F	119	ノート					表紙に「科学読売（コントの科学），週間読売」
ノ	F	120	ノート					「7」とあり
ノ	F	121	ノート					モノクロ写真密着貼付，原版も頁間に挟まる，表紙に「写真資料
ノ	F	122	ノート					London, Paris, Munich, Stokform, New York, Aashington, Chicago, Los Angeles, Seattle, Honolulu」
ノ	F	123	ノート		1967			「30」とあり
ノ	F	124	ノート					表紙に「科学随筆，昭和42年全，聖文社（物理と科学）」
ノ	F	125	ノート					「31」とあり
ノ	F	126	ノート		1967～1968			表紙に「展示研究会」
ノ	F	127	ノート					「32」とあり
ノ	F	128	ノート					表紙に「（通商の道・翻訳）」
ノ	F	129	ノート					「33」とあり
ノ	F	130	ノート		1967～1968			表紙に「（通商の道）1967～68」
ノ	F	131	ノート					「34」とあり
ノ	K	17	博物館大学メモ		1988	10月11日		6枚
ノ	K	18	生涯教育メモ					3枚
ノ	U	923	自然科学概論（補講）	青木國夫		12月		大学授業の立論
綴	A	88	「レオナルド・ダ・ヴィンチ ノート」		欠	欠		戦前戦後のスクラップ・コピー，フラットファイル
綴	A	89	レオナルド・ダ・ヴィンチ展関連スクラップ		1973～1974	欠		クリアファイル止め
綴	A	91	「日本魔鏡の研究」		欠	欠		青木國夫著「魔鏡比較論」原稿あり，フラットファイル止め
綴	A	92	（レオナルド・ダ・ヴィンチ伝出版に関する資料）		欠	欠		原稿コピー，小学館との通信，一括封筒入り
綴	A	109	（永久機関に関する原稿等）	青木國夫	欠	欠		永久機関原稿及びコピー，永久機関関連のコピー・写真一括封筒入り，
綴	D	79	（国立科学博物館 理工学部門整備計画関		欠	欠		ホッチキス止め，展示構成・計画等あり
綴	I	4	「産業考古学会」綴		1976～1978	9月1日		「第1回打ち合わせ会」とあり，創立総会案内・78年度決算報告書・記念撮影写真等あり
綴	I	5	「明治村機械館創設準備」綴		1968			「科学館資料準備委員会」関係会議資料
綴	I	6	「工部史学校」綴					工部大学校関係資料
綴	I	7	「発明の殿堂」綴					社団法人発明協会発行の「発明時報」掲載の「米国にある発明家の殿堂から」連載記事コピー等
綴	I	8	「からくり人形」綴					「茶くみ人形」復元設計図コピー（設計者鈴木）の
綴	I	9	「科学技術保存資料の調査」綴		1972	4月17日		国立化学博物館『科学技術の発達に関する重要保存資料 調査概要』（1973年3月）報告書関係

体裁	箱	番号	資料名	編著者名	年	月日	発行者	備考
綴	I	10	「エレキテル関係資料」綴					橋本曇齋『エレキテル 理原』写真紙焼き・モノクロネガ, 1968年5月20付けドクター・プリンス宛て英文私信在中
綴	I	11	「ペリーのもたらした天秤」綴					青木國夫「ペリー提督のもたらした米国標準天秤」原稿(科博原稿用紙), 「SECRETARY OF THE TREASURY」(1857年レポート)・「WEIGHTS and MEASURES STANDARDS OF THE UNITED STATES」の湿式コピー綴じこみ
綴	I	12	「零戦寄贈関係」綴		1977			「零戦第二次保存工事記録書写」(昭和52年9月25日~10月23日 日本エアロテック株式会社)とあり, 同機は海中から引き揚げられオーストラリア・メルボルンから日本大学理工学部石松新太郎氏が買い上げ, 同氏から寄贈されたもの
綴	I	13	「エディソン資料」綴		1983	2月23日		藤田不二「録音の八十五年史」原稿, オーディオテクニカ『テクニカ・ギャラリー』図録, 英文報文・ガイドブック等綴じこみ
綴	I	14	「水車図面(ヨーロッパの水車)」綴		1981	3月11日		水車図面各種, 青木國夫他「我国の水車に関する報告」(『BULLETIN OF THE NATIONAL SCIENCE MUSEUM』Vol.3(1980年12月22日)抜刷)等綴じ込
綴	I	15	「シルクロード横河館」綴					青木國夫「たたいて おして ためしてみる(仮称)」(1990年こどもの光)立論, 青木國夫「機械」立論・原稿, 青木國夫「エネルギー技術の発達史」立論, 青木國夫「博物館の役割と将来」原稿コピー綴じ込み, ビニール製袋に収まる
綴	I	16	「中国歴史村」綴					青木國夫「日本に於ける科学博物館の動向」原稿, KUNIO AOKI AND TORU NAKAGAWA「A REVIEW OF THE HISTORY OF THE DEVELOPMENT OF SCIENCE MUSEUMS IN JAPAN」原稿コピー, 高橋雄造「DISTRIBUTION OF MUSEUMS OF SCIENCE AND TECHNOLOGY IN THE WORLD」(ミュンヘンでのレジュメ)原稿コピー綴じこみ, ビニール製袋に収まる
綴	I	17	『子供の科学』の文化史	青木國夫				原稿と印刷物スクラップ, ホッチキス止め, ビニール製袋に収まる
綴	I	23	「家電品開発概要」綴					青木國夫・中川徹「日本の科学博物館発達史」原稿(I-15-2関連), 青木國夫「科学の休憩室について」原稿, 青木國夫(科学博物館)原稿, 青木國夫(X線)原稿, 青木國夫「日本魔鏡について」立論, 青木國夫(都博協)原稿, 青木國夫「科学博物館の役割と実験・展示のくふう」レジュメ, 青木國夫「創造力を伸ばすには」講演原稿, 青木國夫「理科施設及び教具のあり方」立論・原稿, 青木國夫
綴	I	24	綴					青木國夫「ウィーン万国博覧会からの持ち帰り品」原稿, 青木國夫(伝統技術)立論, 青木國夫「生活改善と博物館」原稿, 青木國夫「科学者・技術者としてのエジソン」原稿, 青木國夫「人力車を考える」原稿, 青木國夫「コンピュータ考」原稿, 空素封筒上に「保育社「博物館のはなし」」とあり, 「国立科学博物館の沿革」(昭和31年3月作成謄写版), 青木國夫(物を集める楽しみ)原稿, 青木國夫「博物館のはなし」粗案等, ビニール製袋に収ま
綴	I	25	NHK封筒					科学史資料センター構想, 科学史文化財保護関係, 日本万国博覧会政府館構想案等綴じ込み
綴	Q	1	「科学史資料センター1」綴		1968~1971			科学技術記念館設置構想, 1976年の国際連合教育科学文化機関第19回総会において採択された議定書及び勧告, 国際科学技術博覧会資料等綴じ込み
綴	Q	2	「科学史資料センター2」綴		1977~1984			川本幸民遺品目録, 明治七年五月廿一日より舶来品目録/博覧会事務局を綴じこみ
綴	Q	3	「ウィーン万博持ち帰りの品」綴					明治十年内国勸業博覧会報告書コピー
綴	Q	4	「明治10年第1回内国勸業博出品機械類」綴					読書カード, 1983年8月31日座談会「イマジネーションがぼくらを育てた」(青木國夫出席)記録, 戦前の空想科学小説の挿絵・本文コピー等綴じ込み
綴	Q	5	「SFについて(岩波映画)」綴					1981年8月27日~9月29日ルーマニヤ・オーストリア・西ドイツ・東ドイツ・イタリア・フランスを歴
綴	Q	6	「イコム・科学技術委員会」綴		1981			コピー
綴	Q	7	「イタリア科学史文献(本館撮影分)」綴					伊語か, 文献コピー
綴	Q	8	「ヴィトル・ヴィウス」綴					伊語か, 文献コピー
綴	Q	9	「Le MACHINE」綴					イ語か, 文献コピー
綴	Q	10	「ヨーロッパの産業技術史博物館」綴					ヨーロッパの科学系博物館文献コピー, 「国立科学博物館(理工学部)と欧米等の科学技術系博物館との規模の比較について」(レジュメ), 博報堂からの産業技術史プロジェクト推進に関する講演依頼
綴	Q	11	「フォンターナ・オペリスク」綴					伊語, 文献コピー
綴	Q	12	「資料の分類について」綴					社団法人日本博物館協会『昭和35年度博物館資料分類の調査研究』, 『SCIENCE MUSEUM SCIENCE LIBRARY BIBLIOGRAPHICAL SERIES』, 青木國夫「博物館資料の保管・分類目録(理工)」, 各国科学系博物館の資料カード等綴じ込み
綴	Q	13	(無題綴)					「青銅鏡奇性説」『東洋学芸雑誌39号(魔鏡)』MASAO WATANABE「The Magic Mirror of Japan」(『Archives of the CHINESE ART SOCIETY OF AMERICA』1965年)「(中国語:魔鏡)」吉田貞治「日本魔鏡について」(『新潟大学教育学部紀要』第1巻3号, 1959年), 登石健三・石川陸郎「日本魔鏡の一例」(『古文化財科学』第15号, 1958年), H.A.Pilkington「The History and Development of
綴	Q	14	「日本魔鏡」綴					MASAO WATANABE「The Magic Mirror of Japan」(『Archives of the CHINESE ART SOCIETY OF AMERICA』1965年), Philip Blaustein, Sookap Hahm「魔鏡原理によるウェーハ表面のリアルタイム検査」『solid state technology』1990, 日比野謙一「魔鏡の成因とその解明」(『応用物理』第61巻6号, 1992年), 「魔鏡を応用した鏡面・透明基板の表面欠陥児童判定検査装置」, K.KUGIMLY

体裁	箱	番号	資料名	編著者名	年	月日	発行者	備考
綴	Q	15	「日本魔鏡論文」綴					青木國夫「日本魔鏡について」(『科学読売』12, 1964年), 「仏を映す魔鏡のナゾは?」(『科学朝日』1974年11月号, 吉田貞治「日本魔鏡について」(『新潟大学教育学部紀要』第1巻3号, 1959年), 登石健三・石川陸郎「日本魔鏡の一例」(『古文化財科学』第15号, 1958年), 「東洋学芸雑誌39号(魔鏡)」明治17年, 「青銅鏡奇性説」(『学芸志林』明治13年), 渡辺正雄「明治期における魔鏡の研究」(『科学史研究』61, 1962年) 青木國夫「日本魔鏡」, 「An Experiment Q-13~15所収の魔鏡関係文献の青焼き・第二原図コピー等
綴	Q	16	(無題フォルダー)					各種辞令を収める
綴	Q	17	(無題フォルダー)					各種辞令・委嘱状・出版契約書を収める
綴	Q	18	(無題フォルダー)					各種履歴書・辞令を収める
綴	T	54	「湯浅先生テキスト」綴					専修大学湯浅光朝氏が1975・76年代に科博で行った理工学講座のテキストを綴る
綴	T	55	「測量術史料」綴					長谷川善左衛門「測量図説」コピー, ポラロイド写真, 私信等綴じ込み
綴	U	16	「生産技術史講義」綴	青木國夫		欠	欠	1985~1987年の講義レジュメ
綴	V	5	「エジソン展S38」					開催要項, 開幕までの積み上げ資料, 目録案など
綴	V	6	「蓄音機 資料調査(1)」					各種調査メモなど
綴	V	7	「蓄音機 資料調査(2)」					各種資料・文献のモノクロ写真紙焼き
綴	V	8	「イタリア科学史文献写真」					イタリアの科学史に関する図・写真のコピー
綴	V	9	「茶くみ人形部品図」					部品図コピー
綴	V	16	創刊の辞	青木國夫	1976	7月		雑誌『延喜式研究』創刊号, 「延喜式研究」綴に綴
綴	V	17	日照時間と労働量	青木國夫	1976	7月		雑誌『延喜式研究』創刊号, 「延喜式研究」綴に綴
綴	V	18	立論メモ	青木國夫				「延喜式研究」綴に綴る, 「延喜式研究」綴に綴
綴	V	22	「航空博物館創設」					財団法人日本航空協会から航空宇宙館マスタープラン委員を委嘱, 「航空宇宙館の創設構想」, 「航空宇宙館計画図」, 議事録などを綴る
綴	V	23	「京大・日本産業技術発達過程の研究」					京大の科研費申請書写し, 1978年頃通産省の機械産業博物館(仮称)の議事録などを綴る
綴	V	24	「新潟県自然科学館」					1978年頃新潟県自然科学館展示計画指導有識者に委嘱される, 「基本構想」設置準備資料を綴る
綴	V	25	「文部省・大学所蔵標本実態調査」					1979年頃文部省学術国際局情報図書館課長から委嘱, 実態調査カード・記入方法などを綴る
綴	V	26	「度量衡関係・大野規周・計量史学会・計量研移管資料」					計量研究所から1974年頃科博への移管資料写し, 1981年頃社団法人日本計量協会実施の歴史資料調査の委員の委嘱, 同調査の集計表, 1966年頃の計量器を写したモノクロ紙焼き写真4葉ほかを綴る
綴	V	27	(文部省封筒)					平成8から11年度学芸員資格認定委員(科学史)に委嘱され, その委嘱状・試験問題案等を収める
フォルダ	J	10	「 2 」ケース					中にクリアファイルがあり, 青木國夫「科学センターとしての世界の科学博物館」コピー在中
フォルダ	T	56	無題フォルダー					モノクロ写真紙焼き6葉(機器の写真), 鹿兒島一郎「レコードの歴史(1)(2)」コピー, 昭和60年7月15日付け覚書(フレーベル館, 父親の虎の巻5レーザーディスクはなぜ七色か監修について), 文部省初等中等教育局小学校教育課長からの「教育の話題 子供とマイコン」執筆依頼状
フォルダ	U	5	(青木家ベルネックス旅行資料)					旅程, 案内書, 領収書挟まる
フォルダ	U	6	「原稿・パンフレット」綴					科博『時と時計展』財団法人科学博物館後援会, 社団法人日本計量協会『度量衡の歴史展』(1966年6月日本橋三越), 科博『日本の科学を築いた人たち』, 科博『録音の話』財団法人科学博物館後援会, 科博『おもちゃの科学』科博, 科博『エジソンの蓄音機とレコード』財団法人科学博物館後援会, 『エレクトロニクスの開拓者 真空管と安藤博』財団法人安藤研究所(1988年6月11日), 『復刻ダイジェスト版 子供の科学 1924-1943』(誠堂新光社, 1987年6月1日, 付箋付き), 青木國夫と吉田光邦の対談「今 潤滑文化を考ふる」(日本石油株式会社国際大学, 財団法人安藤研究所, 財団法人日本博物館協会, イコム委員会, 千葉県教育委員会, 名古屋市教育委員会, 目黒区教育委員会, 財団法人日本科学技術振興財団, 社団法人発明協会, 財団法人航空科学振興財団, 社団法人日本航空宇宙工業会, 各務原市長, 財団法人中部産業活性化センター, 多摩六都科学組合, 呉市長, からくり夢工房実行委員会, 財団法人日本生命財団, 産業考古学会, 太平洋履歴書, 略歴書, (私の記憶), 「私の願い」, 科博名誉館員贈呈決定書, 科博への資料寄贈受領書, 墨田工業高校同窓会名簿, 入院診療計画書, 某社からのコンサルタント業務委託契約書, 誠文堂新光社の「科学の質問箱」中国版翻訳出版堂書を収める
フォルダ	V	28	「委嘱その他」					中にクリアファイルあるも, すべて空
フォルダ	V	29	「青木履歴」					中にクリアファイルあるも, すべて空
フォルダ	J	9	「 1 」ケース					中にクリアファイルあるも, すべて空
フォルダ	J	11	「 3 」ケース					中にクリアファイルあるも, すべて空
フォルダ	J	12	「 4 '83」ケース					中にクリアファイルあるも, すべて空
フォルダ	J	13	「 5 '84」ケース					中にクリアファイルあるも, すべて空
フォルダ	J	14	「 6 '85」ケース					中にクリアファイルあるも, すべて空
フォルダ	T	57	無題フォルダー					空